



## 今後のスポーツと「プラザちゅうたい」

市民スポーツの普及を進めている市体育指導委員協議会の会長と体育課長に、今後のスポーツや「プラザちゅうたい」のあり方について、伺いました。

### 競技スポーツから 生涯スポーツへ

市体育指導委員協議会会長  
後藤 千幸<sup>ちゆき</sup>さん（太田町）



30年前、中濃体育館（現プラザちゅうたい）が建設されたときは、当時人口3万5千人余りの当市において、もったいないような施設であったと記憶しています。しかし、30年経過し、市の人口が5万人を超えた今、スポーツの、そして「プラザちゅうたい」のあり方に変革が求められているように思います。

社会問題となっている核家族化、高齢化、少子化や、趣味の多様化が、多人数で構成する、あるいは身体能力の高さを必要とするスポーツチームの編成を困難にしている一方で、身体能力をそれほど必要

とせず、少人数でも参加できる軽スポーツの需要が年々高まっています。つまり、競技スポーツと生涯スポーツの定義を踏まえ、誰でも自身の体力や余暇に合わせ、健やかな生涯を満喫できるスポーツが求められているのです。

そんな変革期の中で「プラザちゅうたい」は、市民に必要な情報の提供やハードの整備、職員の意識改革が求められていると同時に、市民のニーズを十分に把握し、「市民スポーツ」の拠点としての位置づけを確立しなければならぬのではないのでしょうか。

### 今後のスポーツを支えるのは地域の皆さんです

教育委員会体育課  
佐 光 博 司 課 長



最近では、年齢や性別を問わず、誰でも楽しめる「軽スポーツ」は需要が高く、参加者も増加傾向にあります。その一方、自治会野球やバレーボール大会など、毎年開催される市民大会への参加者（△）は減少傾向にあります。

最近では、年齢や性別を問わず、誰でも楽しめる「軽スポーツ」は需要が高く、参加者も増加傾向にあります。その一方、自治会野球やバレーボール大会など、毎年開催される市民大会への参加者（△）は減少傾向にあります。

市では、市民の皆さんのニーズに合った軽スポーツやニュースポーツを増やしていくのは、市や「プラザちゅうたい」ではなく、地域の皆さんです。

その地域の皆さんが中心となり、スポーツと文化的な活動を広げていこうと、当市と富加町で進めているのが、「MT夢クラブ21」（総合型地域文化・スポーツクラブ構想）です。

「MT夢クラブ21」は、現在90団体の登録があり、既に各地で活動を始めています。また、今後とも会員とともに、いつでも、どこでも、誰でも気軽に参加できるクラブづくりを進めていきますので、興味がある人は、ぜひ参加してください。